

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年6月28日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.127】

JR総連特別執行委員は組織自ら革マル派と認めた人物だ！

JR総連の正式名称は「全日本鉄道労働組合総連合会」だが、「全日本」と言いながら、JR九州とJR四国には組織がなく、JRの全国組織とは呼べない組織実態にある。とくにJR九州においては、本情報でも詳しく検証した九州労大量脱退事件をきっかけに、JR総連と九州労との対立が激化し2006年に同労組が脱退した経過があり、このことがよほど悔しいのか、JR総連は「九州再建の闘い」に躍起になっている模様である。

6月6日～7日に開催されたJR総連第26回定期大会の資料には「九州再建の闘い」と題して以下の記載がある。

九州再建の闘いは、「先達の闘いを九州の地に残そう」「JR総連の旗を再び九州の地へ」と確認し闘いを推し進めてきました。その闘いは、九州地協・OB・広域移動の皆さんや九州の地に存在する心ある先達の皆さんの取り組みによって支えられてきました。JR九州ユニオンK執行部は、2006年7月JR総連からの脱退表明(2007年除名)以降、「九州労財産の隠匿・不正贈与」や「スト生活基金の不正返還」など、組合員に一切の真実を明らかにすることなくいまだデタラメな組織運営を行っています。そして昨年は、平成採用のJR九州ユニオン組合員2名が脱退し、JR九州労組に加入するという事態も発生し組織のほころびもあらわになっています。JR総連は、2008年12月10日、JR九州ユニオンに対し「現状の憂慮すべき事態についての話し合いの申し入れ」を行った以降、再三再四にわたり関係修復のための話し合いを求めてきました。しかしK執行部は現段階にあっても「JR総連憎し」の発言を弱々しく行いつつ自己破産の隠蔽をおこなっています。JR総連には、JR九州ユニオン組合員に全ての真実を伝え、組合員の利益を守る責務があります。さらに、九州の地には「先達の闘いを九州の地に残そう」と再建に向け闘いの先頭に立っている多くの心ある仲間が存在しています。九州の地に、JR総連運動を再構築するため取り組みを強化していかなければなりません。

政府答弁書が「事実無根」と言う前に重大な疑問に答えよ！

JR総連の「九州再建の闘い」を担っているのは、特別執行委員の小西富士雄氏とみられる。同氏が特別執行委員にいつ指定されたのかはわからないが、2009年2月のJR総連第31回中央委員会以降、大会・中央委員会に名前の記載がある。そして小西氏は、松崎明氏が会長を務める「国際労働総研」の「主任研究員」との肩書きで、機関誌「われらのインター」にも度々寄稿している。

この小西氏については、本情報「No.52」「No.53」に詳述しているのでよくお読みご覧いただきたい。小西氏は鳥栖機関区出身の元動労の革マル派九州政治局員(宗形明氏「もう一つの『未完の国鉄改革』」(高木書房))で、坂入氏の拉致・監禁事件に際して、JR総連が革マル派と断定した人物だ。坂入氏自らも革マル派機関紙「解放」の紙上でもそのことを認めている。さらにJR総連は、九州労の書記であった小西氏の妻が坂入氏の拉致に関する真相を語ったことで、彼らを拉致犯人の仲間であるとも述べている。

JR総連自ら革マル派と断定した人物が、自組織の特別執行委員に就任しているとはどういうことか。JR総連・東労組への革マル派の浸透を認定した民主党政権の答弁書を「事実無根」「誹謗中傷」と言う前に、この重大な疑問に明確に答えなければならない。